

令和3年度明徳会 事業報告

報告者：石井 康就

◇ 事業方針

ピンチをチャンスへ

◇ 今年度のポイント

① 「ピンチをチャンスへ」

何もしない事が一番のリスク。ピンチの時だからこそチャレンジすることを念頭に、全部署コロナ禍でもできる場所を見つけ出して、強みを生かした内容を盛り込み実施しています。

② 引き続き「明徳会」ブランドの再構築の意識を持って

R3年6月から差別解消法が一部改正となり、東京パラリンピックを契機に更に「心のバリアフリー」も掲げられ、より一層開所当初から大切にしてきた権利擁護についての意識を高めていくことが求められています。ご本人からの要望をしっかりと受け止め、意思決定支援へと反映していく仕組みが少しずつ浸透してきているように感じています。継続して実践していくことでスキルアップへと繋げていきたいと思っています。

③ SDGsの整備を進め、明徳会としてまた一職員として持続可能な開発目標の策定・実行に努めていく。

内部研修を実施し、職員から挙げられたSDGsの取り組みを明徳会で取り組む内容としてまとめています。熊本県のSDGs登録事業者に令和4年1月26日～令和7年1月25日まで認定され、今後2030年までの達成目標を掲げ取り組んでいきます。

【取組結果】～上記計画に対し事業所ごとでの取り組みの報告～

● チャレンジめいとくの里

【入所／介護系】

入所ではグループホームができたことと2名のご利用者様が急逝され、数名の方の入れ替えが 있습니다。高齢化や障害特性から急変することへの対応や日頃からの気付きの発見などの大切さを改めて痛感させられる一年となっています。

日中活動の方では体制も変わり、ご利用者様のニーズを実現化する仕組みを新たに設け、「楽しみ」に特化した活動を取り入れ実践しています。

通所部でも意思決定支援の社会生活支援を主として、コロナ禍でも出来る活動を多く盛り込み提供しています。外部からの講師や移動販売を活用し、テイクアウト等も利用することで外出の制限を受けながらも社会とのつながりを意識した活動の提供を行っています。

● 【ゆめくらしワークス】（就労支援・生活訓練・就労継続支援B型・就労定着支援）

R2年度に新型コロナウイルスの打撃の影響を一番受けたのがゆめくらしワークスで、特に生活訓練・就労移行は厳しい状況にありました。前年度の反省を生かし、R3年度からはその中でも実績をあげていけるよう、年度当初からワークス戦略会議を毎月実施し、PDCAを繰り返し行っています。

コロナ禍を前提とした中での啓発活動や新たな活動の中身をつくっていくことで、少しずつですが状況を打開しつつあります。まだまだ厳しい状況に変わりはありませんが、引き続き次年度も時勢に即した内容を試行錯誤しながら作っていく必要があると感じています。

●障がい福祉サービス事業所【ケア・ハピネス】

ケア・ハピネスに関しても新型コロナウイルスの影響で利用を自粛される方もおられ、通常時に比べると利用状況は減少しています。それでも昨年度に比べると新型コロナウイルスによる影響は最小限に抑えられたと感じています。活動内容もリモートを活用しての新たな取り組みやコロナ禍でも外部と繋がる工夫を盛り込み実施しています。開所して7年が経ちマンネリ化してくるところもあるため、まずは10周年に向けて課題と目標をしっかり持ち、チャレンジ精神を忘れずに取り組んでいきたいと思っています。

●地域連携部

【熊本市障がい者相談支援センターチャレンジ／地域生活支援センターメイト】

中央区から北区へと拠点を移したことで9月に地域支援センターメイトは閉鎖し、相談業務はチャレンジのみに一本化しています。引き続き熊本市の委託は北区へ拠点を移して運営しています。基幹相談支援が本格的に始まり、新たに地域支援員の配置や北区の各ネットワークへの参加、行政、高齢分野、学校関係等、幅広く連携を取る形ができてきており、一年目から北区の相談支援の拠点として良いスタートができています。

●ゆめくらし事業所

【オレンジハウス／アクアテラス】

令和3年度末の段階で19名の方が入居され、残りオレンジハウス1名が空き状況となっています。入居者の方が埋まるにつれて課題も出てきており、その都度職員の配置の調整をおこない増員して対応しています。支援者も新たな動きに対応できるよう支援・業務のマニュアル化を図り、徐々に形ができつつあるため、まずは定員を満たすことを目指していきます。

●事務部・人事

新卒の入社が初めて一人もいない状況で、人材確保に関しては依然厳しい状況にあります。その中でも中途の採用者を数名得ることができたことはプラスな面となっています。必要な人材を確保できるよう、引き続き「多様性」に対応した、職場環境、働き方に重点を置き、アンケートの聞き取りやストレスチェックの精査を行っていきます。

【次年度の課題】

「安心」「安全」「安らぎ」に向けて

年度末から新年度にかけて入所部でクラスターが発生したことで大打撃をうけることとなっています。しかし、その中でも職員が一丸となってクラスターの対応を行い、3週間余りで収束を迎えることができたことに関しては今後事業を行っていくにあたっては必ず生きてくることと感じています。令和4年度もコロナ禍の状況はまだまだ続くと思われています。「ピンチをチャンスへ」で培った精神を次年度も職員一人一人が持ち、団結していく事でこの困難な状況を打開していく力としていきたいと思っています。限られた中でもやれることを作りだし、そういった力、スキルを持てるような職員を育てていける職場の環境、風土づくりをめざしていきます。

以上